

オランダ国のフリジア語の待遇表現

クレム ヒームストラ (C. T. S. Hiemstra)

I. はじめに

(1) 調査対象地；西ヨーロッパに属するオランダ王国は、西を北海を隔ててイギリスをのぞみ、陸つぎに東をドイツと、南をベルギーに接している。

オランダは第一標準語のオランダ語とともに、第二標準語のフリジア語が行なわれている。このフリジア語は英語やドイツ語にも近い言語である。現在、オランダ語が盛んであり、フリジア語の中にオランダ語の文法が浸透しつつある。若年層の世代ではもはやオランダ語が主流となっている。オランダ語の使用は少しのフリジア語の訛り（アクセントの面が大きく、文法は少ない）が存するものの、自由に言語生活を行なえる。フリジア語を話すつもりでもオランダ語の影響を受けた話し方になってしまう。フリジア語は音声言語に限定されつつあり、読み書きはオランダ語である。

一方では、衰退しつつあるフリジア語を守ろうとする動きがある。フリスローアン州 (Fryslân) において、小学校でフリジア語の授業が行なわれたり、公的機関でフリジア語の公文書を用いたりすることを義務づけている。また新聞や文学に生かそうとする運動も見られる。

(2) 調査年月日；1996年12月～1997年4月

(3) 話者；クレム ヒームストラ (C. T. S. Hiemstra) 話者の言語経験にふれておく。生まれはフリジア語圏のガストローアンである。父親はフリジア人であり、母親はオランダ人である。父親は農業専門学校の教師であり、フリジア語で専ら生活していたが、両親は標準語のオランダ語での教育を方針とした。周囲の者は、フリジア語を話していた。聞いて理解はできたが話しはしなかった。祖母はドクムの出身で階層的に意識してオランダ語を話そうとしていたが、実際はフリジア語を無理をしてオランダ語にしたような、相当に訛りのあるものであった。話者はフリジア語に8歳ぐらいから憧れを抱くようになった。そのきっかけは、小学校2年生の時、親友の家に遊びに行ったとき、その農家の家庭では自信をもってフリジア語を使っていた。農家の人はフリジア語のすばらしさを話者へやさしくそして熱心に教えてくれた。10歳でオランダのアペルドールンへ居を移した。当然ながらオランダ語の世界であった。周囲の者からフリジア語の訛りがあると指摘されて、はじめてフリジア人であると意識し同時に誇りに思えた。その後、学校の休暇の度ごとに、故郷のあの農家に帰ってフリジア語を話すようになった。それでも書き言葉はオランダ語であった。

高校卒業後、アメリカ国のアイオワ州に一年間の留学し、帰国語ユトレヒト大学に入学し、翌年にライデン大学の日本語学科へ転校した。2年生の時に長崎県のハウステンボスで勉学し、一年後帰国する。4年生の現在、大阪教育大学に一年間の短期留学中である。

- (4) 調査者；クレム ヒームストラ (C. T. S. Hiemstra) (井上博文が協力した)
- (5) 調査方法；まず、調査票にそいながら、若年層のフリジア語の話し手である調査者が内省を行なった。日本語の待遇表現の枠組みに基づく調査票のために、当然ながら枠組みから逸脱したり、相当する表現が見当らなかつたりした。したがって、特有の場面を想定しなければならなかったこともあった。そこで、日常生活の行動を想起しながら、待遇行動に関わる身体表現も含めつつ、待遇表現を求めた。
- (6) 表記方法；フリジア語による表現の場合はフリジア語で、オランダ語による表現の場合はオランダ語で表記した。なお、オランダ語の表現には文例番号を四角で囲んで区別した。その後に日本語訳をつけた。

II. 調査結果

1. 尊敬表現

1-1 対者敬語

(1) A 01. Hoe giet it (元氣?〈どうしてる?〉) 02. Hoe giet it 'r mei? (元氣?〈おれどうしてる?〉)

B 03. Hoe is it mei jo? (お元氣ですか〈あなたはどうですか〉) 「jo」は二人称「あなた」の丁寧語。普通の言い方では、「do」である。

C フリジア語では「jo」と「do」の二つの対立であるから、これ以上に言語形式で区別することはない⁸。さらに相手に対して丁寧な態度をとろうとする場合には、相当に丁寧なこととなるが、これまで自分のために相手がやってくれたことに言及して、そのお礼を述べる。プライベートなことに触れすぎるのは失礼である。ただし、表情や身振りなど身体言語によって丁寧さを区別する。

(2) A 04. Bist moarn thús? (明日は家にいるの?〈君は明日家にいるの〉) 「bist」は「do bist」であるが「do」の省略。

05. Bist 'r moarn ek? (明日もいるの?〈君はそこに明日もいるの〉)

B 06. Binne jo moarn thús? (あなたは明日家にいますか?)

07. Binne jo d'r moarn ek? (あなたは明日もいますか、)

「binne」は存在を表す動詞で「bist」の複数形で、丁寧な言い方になる。

(3) A 08. Giesto moarn? (あした行く?)

B 09. Geane jo moarn? (あした行きますか?)

(4) A 10. Giesto mei te fiskjen? (釣りに行く?) フリジア地方には温泉がないので、「fiskjen(釣り)」にした。この表現はストレートに誘う言い方となる。文例11は、否定表現による誘い掛けになり、文例10に比べるとやわらかい言い方となる。相手に強要するものではない。

B 11. Geane jo net mei te fiskjen? (釣りに行きませんか)

この否定表現による誘い掛けは、子どもへのもの言いにも用いられる。ただし、二人称代名詞「jo」は使わない。とはいえ、大人(特に親)が子どもに言う場合には、言葉の響きはやさしいが、子どもにそれほど選択権はない。

(5) A 12. Wat dochsto moarn? (あした何する?)

B 13. Wat dogge jo moarn? (あした何をしますか?)

- (6) A 14. Hasto ... sjoen? (...を見た?)
 B 15. Hawwe jo ... sjoen? (...を見ましたか?)
- (7) A 16. Hoe let giengsto justerjoen op bêd? (君は昨日何時に寝たか?)
 B *17. Sliepe jo wol goed? (あなたはちゃんと寝てますか?)

目上の者に対して、このようなプライベートの質問をすることは基本的にない。聞けば失礼になる。例えば、友達が眠そうにしているときに、このような質問は普通にできるけれども、先生には聞けない。

C 18. Geane jo mar op dat bêd lizzen. (どうぞそのベッドの上になんて)

相手に懇願する場合には、文末に「asjeblieft (もしよければ)」を加える。

- (8) A 19. Wer silsto hinne? (どこに行くの) ストレートに聞く言い方。
 B 20. Jo hawwe it mar drok! (あなたはお忙しいですね) 目上の人に対して行き先などプライベートなことを聞くのは礼儀知らずなことになる。文例20のように挨拶する。
- (9) A 21. Hjir (此). 「ここ」という意味で、食べ物を相手に差出しながら言う。
 B 22. Asjeblieft. (どうぞ) 丁寧な言い方である。店員がお客に品物やおつりをわたすときにも言う。
- (10) A 23. Lit my ris sjen. (ちょっと見せて)
 B 24. Mei ik even sjen asjeblieft? (ちょっと見ていいですか.)
 25. Soe ik dy foto wol even besjen meie? (もしよければその写真を拝見させてください.)
 26. Soe ik dy foto net even besjen meie? (その写真見てはいけませんか.)

文例25・26は、とても丁寧な言い方である。文例26は、非常にへりくだったニュアンスが感じられる。

1-2 第三者敬語

日常生活のなかで、第三者のことを話題にする場合にも、ことさら表現がかわることはない。しかし、ニュースやテレビ番組で、女王様や王室の話題となれば、「かたい」感じのものが言いがなされる。この文体の違いは、書き言葉を話し言葉の中に使うことで生まれる。あらたまった感じのニュアンスがする。「かたい」言い方と感じられる。例えば、文例27は人の椅子にすわることに言及した軽い言い方であるが、文例28となれば重々しい言い方となる。

27. Beatrix gaat op de troon zitten. (ベアトリックス(人名)が女王様の椅子に座る.)

28. Hare Majesteit Koningin Beatrix neemt plaats op de troon. (今上女王様が玉座にいま、ご着席されている.)

以下、Aに限って記述する。普通に「かたい」言い方になるものは下線部を変える。

- (11) A 29. Hij zal morgen wel thuis zijn. (彼はあした家いるだろう.)
- (12) A 30. Hij was er niet. (彼は居なかった.) → afwezig (欠席)
- (13) A 31. Dat heeft hij gezegd. (彼はそう言った.)

- (14) A 32. Zonet was hij er. (さっき彼はそこに行った。) → aanwezig (出席)
- (15) A 33. Ik heb bezoek. (私はお客さんがきている。)
「お客さん」としたのは「vriend(en) (友達たち)」とすれば、話し手との優先関係を暗に表現してしまうので、「bezoek (お客)」とする。
- (16) A 34. Hij is aan het werk. (彼は働いている)
- (17) A 35. Hij heeft me een leuk boek laten zien. (彼は私におもしろい本を見せた。)
→ interessant boek getoond (興味深い本を展覧した)
- (18) A 36. Hij heeft me een leuk boek laten zien. (彼は私におもしろい本を見せた。) → 文例24と同じ
- (19) A 37. Hij heeft mij dit gegeven. (彼がこれを私にくれた。)
- (20) A 38. Deze bloem heb ik gekregen. (私はこの花をもらった。)

文例29から文例38はオランダ語である。むろんフリジア語でも表現できないことはないが、フリジア語では話し言葉が主体であり、書き言葉はあまり使われない。論文を書いたり論理的に思考しようとしたりするときには、オランダ語となってしまう。まさにフリジア語は日常生活の言葉である。話し言葉の中に書き言葉的な要素を持ち込むことで、あらたまったニュアンスを醸すのであるから、これらの項目で表現差をだすためには、オランダ語を使うことが普通である。

2. 謙譲表現

2-1 謙譲表現

- (21) A 39. Bêst. (元氣)
B 40. Mei my is it ek bêst. (私も元氣です) 友人の場合わざわざ整った文を使わなくてもいいが、目上の人の場合には省略をせずには話さなければ失礼である。
- (22) A 41. Nee, dankje, ik hoef echt net mear. (いいえ、ありがとうございます、本当に結構です。)
- (23) A 42. Lit my dat mar foar jo drage. (それを私に持たせて下さい) 'Lit' は英語の 'Let' に相当するものであるが、フリジア人にとって、'Lit' を使うと、かたい感じに聴こえ、親しい人にはあんまり使わない。
- (24) A 43. Oh, sorry. (あ、ごめん。)
B 44. Nim my net kwealik. (失礼しました。)
- (25) A 45. Ik stean by it station op dy te wachtsjen, hear. (私は駅で君を待っているよ。)
B 46. Ik sil by it station op jo wachtsje. (私は駅であなたを待ちます。)
- (26) A 47. Wolst tsjin myn man sizze 'at ik sa thús kom? (夫に私がすぐ帰ると言ってくれる?)
B 48. Wolle jo asjeblieft tsjin myn man sizze 'at ik sa thús kom? (夫に私がすぐ帰ると言ってもいいですか。)
C 49. Soene jo wol oan myn man oerbringe wolle 'at ik sa thús kom? (もしよろしければ私がすぐ帰るとお伝えできませんか。)

日本語の「～てくれ」や「～てください」のような命令形でも、丁寧な表現はフリジア

語にはないから、疑問文にしなければ命令的な表現になってしまう。

(27) A 50. Hjir. (はい)

B 51. Asjeblieft. (どうぞ) (9) 参照。

2-2 身内敬語

(28) A 52. Ik ha klearn foar de lytsen kocht. (私は「ちっこいやつ」に洋服を買ってやった)

B 53. Ik ha klearn foar myn bêrnsbêrn kocht. (私は孫に洋服を買ってやった)

親しい人に中立的な言葉である “bêrnsbêrn” (子供の孫) ではなく、愛称などを使う方が自然な言い方である。愛称を使いあうことのできる親密な間柄であることを表示する。

(29) A 54. Myn man is al thús. (夫もう帰っている)

親しい人には、夫の名前を用いるのが普通である。

3. 丁寧表現

(30) A 55. Ja. (はい) 肯定的な返事。

B 56. Ja, hear. (はい、行くよ) 安心させるようなやわらかい答え方。

57. Ja, meneer. (はい、先生)

文例57は、英語の “Yes, sir” に相当し、とても丁寧な答え方である。例えば、子どもがいたずらをして、それを先生が「お前がやったのか」と叱ったとき、子どもが “Ja” とだけ答えると、「ちゃんと言葉を二つ使え」と注意される。“Ja, meneer” (はい、先生) と言うべきとされる。こうすることで先生への敬意が表示される。同じように家庭の中で、“Ja, heit” (はい、お父さん) “Ja, mem” (はい、お母さん) となれば、厳しい躰けとなる。

(31) A 58. Kâld hin? (寒いなあ)

B 59. Wat is 't kâld hjoed, net? (今日はかなり寒いですね)

C 60. Fine jo it ek net kâld hjoed? (今日はかなりお寒くありますね)

(32) A 61. Ja. (はい)

B 62. Ja, hear. (はい) 63. Ja, meneer. (はい、先生)

(33) A 64. Moai dast wer better bist. (君が元気になってよかったね)

B 65. Ik bin bliid jo wer better te sjen. (お元気になられてうれしく思います)

(34) A 66. Oh ja. (あ、そう)

B 67. Is dat sa? (それはそうですか)

応答の表現としての、例えば他の言い方に “Goh” “Aha” “Ja, ja, ja” “Fyn ik ek” “Ja, ik begryp dy” などがある。前の三つは「うなずく」感じのかるいものであり、後の二つは自分の意見として、強く応ずるものである。相手の発言を肯定する丁寧なものとして、“Jo ha gelyk” がある。(この表現は相手への揶揄・皮肉の場合にも用いる)。一般に、話し手は聞き手の単なる応答(聞いていることだけを表わす)ではなく、相手の意見を求める。お互いに自由に意見を述べあうことを是とする。敬虔なキリスト教者に対

して“Goh”と使えば、「Goh」は「God(神)」をもととするから、失礼なことになる。

4. 人間関係に応じた待遇表現

4-1 特定表現の待遇表現

(35) A 68. As jo op 'e hoek rjochts ôfslaan~(あなたが角をまがって右へ行きますと~)

(36) A 69. Nee nee nee, ik net. (いや、や、や、私じゃない。)

4-2 多人数場面の待遇表現

(37) A 70. Ik sil myn bêst dwaan. (頑張ります。)

(38) A 71. Der binne noch net genoach oanmeldingen foar de reis, dus ik wol nochris freegje of der net noch wat minsken binne dy mei wolle.

(旅行には参加が足りないので、もう一度、参加したがる方がいないかと尋ねたいんです。)

4-3 位相による待遇表現

(39) 朝の路上での挨拶(12時までの挨拶)を取り上げる。

1. 一般的な言い方。大人の言い方。

72. "Goeiemoarn": <Ik winskje jo in goede moarn ta (良い朝があなたにあるように)>

2. 一般的な言い方。やや形式的な挨拶。大人の言い方。

73. "Goeie": 「Goeiemoarn」の省略語。

3. 親しい同僚たちへの言い方。74. "Moarn": 「Goeiemoarn」の省略語。

4. 親しい同僚たちへの言い方。年寄くさく、女性は普通使わない。オランダ語。

[75] "Morgen": オランダ語の「Goeiemorgen」の省略。

5. 友達や家族など毎日会う親しい者への言い方。1~4の形式的な言い方を避ける。

"(Ha,) + [名前]": たとえば, Ha, Clement. (はい, クレメント)。親密感のある言い方。

怒っていたりこみいった用事のある場合や驚いたときには、「Ha,」ではなく「hee」となることが多い。

初対面の人に対しては、握手をしながら自分の氏名を言う。この時に、若者は名前を言い、年輩は名字を言う。名字を言う方があらたまったかたい感じがする。握手は立って相手の目を見て手に力を入れて握る。やわらかく握ると気持ち悪がられる。座ったまま挨拶すると、相手を馬鹿にしたり拒否したりする心情を表してしまう。無礼な所作となる。

ベルギーに近いオランダ南部の方から、親しい者どうし(男性—女性、女性—女性)が頬にかかるくキスをする挨拶の習慣が広がってきた。北部出身者は、この挨拶としてキスをする習慣にとまどう。さらに、最近の若い進歩的な男性は男性どうしでの挨拶をする者が見られるようになった。これには心理的な抵抗を強く感じる。

III. 総括(まとめ)

私にとって、このような調査を行なって、まとめるということは初めての経験である。オランダの大学生活でもなかったことである。実際に当該地域の臨地調査の資料を用いた

のではなく、自分自身のの言語を内省したものである。したがって、ここには個人的なものを含んでいると思う。しかし、少なくともフリジア語とオランダ語を話す若者の話者としての一人であることには違いない。

調査項目は日本語諸方言の待遇表現法の特徴を明らかにすることをめざして取り上げられたものである。したがって、他の言語、この場合はフリジア語とオランダ語の待遇表現法の解明に適さない部分もある。フリジア語とオランダ語の体系的な待遇表現法の記述を行なってはじめて正確な対照ができるものである。今回の作業は日本語の観点からみた当言語の一つの特徴を捉えたものと位置付けることができる。

最後に、この作業を行いながら日本語とは異なる部分に気付いた。待遇表現からのフリジア語・オランダ語についての気付きを簡略に述べる。

- (1) 日本語に比べて、待遇の段階を区別する言語表現が少ない。しかし、表情・態度・行動、音声面等々によって、相手への心理的な距離を表現する。
- (2) 自分の意見を率直に述べることは評価される。しかし、他人のプライバシーを尊重し話題として、積極的には触れないようにする。
- (3) オランダ語で特に若い男性層では、親しい者へは、通常の品位の表現よりも、文体的にやや下品な品位の低い表現を用いて、相手への親愛の気持ちを表すことが普通である。例えば動詞「話す」と「食べる」に当たる動詞を並べると、次のように段階分けができる。

上品な言い方	spreken (語る) 内容の重い話し、日常会話に用いると	dineren (召し上がる) 高級な感じ
	かたく大げさで滑稽に感じる。	
中立的な言い方	praten (話す)	eten (食べる)
ふざけた感じのいい方	kletsen (雑談する、しゃべる)	schaften (食う) 労働者の言葉
やや下品な言い方		bikken (食う) (男性的に) がつがつ食べる。
下品な言い方	lullen (ぬかす、訳の分からないことをしゃべる)	vreten (食らう) 本来、動物の食べることを言う
	【語源的には男性の性器】	kanen (食らう) 汚い食べ方。

- (4) 相手をののしる言葉として、宗教的・性的・病気に関する表現が多い。諍いの時ばかりでなく、日常的に発し、癖になってしまっている。軽く嫌だという気持ちで女性でも発する「Gatverdamme」(例えば料理がまずい時など)は、もともと「Godverdomme」(神よ、私を呪い殺して)という重い意味を持っている。これを使うことで気持ちがすっきりする。
- (5) フリジア語がいまや衰退しつつある言語であることを身を感じている。政治や経済のことを話そうとすれば、オランダ語を使わなければ話しにくい。一方でフリジア語を守ろうとする運動が存し新聞や雑誌をあえてフリジア語で書く場合がある。そのフリジア語を見ると、不自然に思える箇所が多々出会うのが現実である。

初対面の時にはフリジア語を避けてオランダ語で会話をしようとする。一旦、オランダ語で会話する間柄になると、フリジア語を互いに使うことができても、おかしさや気恥ずかしさを感じてオランダ語のままですら話し通す。卑近な日常生活ではフリジア語を使ってい

でも、フォーマルな場面では無理をしてでもオランダ語を使おうとする。市役所などでフリジア語で話すと、「田舎くさい」印象を強く与える。また、現代の新しい生活に即応するフリジア語の語彙が不足するのも一因となっている。オランダでも文化の標準化がすすみ、文化の地域性が小さくなっている。フリジア語を使う必要性もまた小さくなった。

注

屈折語であるから、語形の変化を伴う。例えば、存在を表す「binne」は以下のように変化する。分かりやすくするために英語・ドイツ語・オランダ語と対比する。

英語	フリジア語	ドイツ語	オランダ語
TO BE	BINNE	SEIN	ZIJN
I am	ik bin	ich bin	ik ben
you are	do bist	du bist	jij bent
he/she/it is	hy/sy/it is	er/sie/es ist	hij/zij/het is
we are	wy binne	wir sind	wij zijn
you are	jimme binne	ihr seit	jullie zijn
they are	sy binne	sie sind	zij zijn
	jo binne	Sie sind	u bent/is

参考文献

児玉仁士『フリジア語文法 オランダのもう一つの言語』（1992.10 大学書林）

付記；私は、自分がフリジア人であると主張したいと願っても、フリジア語自体がうまく使えない場合が多い。だとすると、自分の母国語はやはりオランダ語ではないかと思う。論述してきたなかには、伝統的なフリジア語から見ると、おかしなところがあるかも知れない。表現しきれない自分をもどかしくも感じている。一方にはフリジア語の一旦を紹介できたことのうれしさがある。

なお、日本語で考えてきたこの調査では、井上博文先生の懇切な助けを得た。記して感謝を申し上げる。